

神林地区地域活性化推進事業について

(前回のまとめ)
「多くの団体に集まってもらうのではなく、最初はお幕場・大池・平林城跡で活動している団体に」

- ア 荒川地区とネットワーク化を図って、荒川地区に来た人を神林地区にも来てもらえるような施策をみんなで考えていくことが必要だと思います。
- イ 道の駅からかみはやし農協の付近が中核地域になるように思っていますが、この地域の特産品を私達も実際に作ってみて、商工会などとタイアップしてPR、販売していくことが重要だと思います。
- ウ 「神林」という名前は他地域から見るとインパクトのある名前らしく、アピールできる名前だと思うので、「神林」という名前の入ったキャッチフレーズを考えてみて面白いと思います。
- エ これまでは個々の関係者のみで行っているのが現状だと思います。そういう個々の分野のイベントを一緒にして横断的な取組みを行い結び付けていけば今まで関わっていない人、知らなかった人との関係もできて活性化につながっていくと思います。
- オ この地域の魅力あるものを発見し、作り出すことが必要だと思います。
- カ マップを作っただけで終わらせないで、その後に観光と農業を結び付けた取組みにつなげていくようにすればいいと思います。
- キ 神林の旗を作り、神林で開催されるイベント会場に立てて写真を撮り、次に開催されるイベント会場へ届けるリレーをしていけば交流が生まれてくるのではないかと思います。
- ク 新しいことを始める、新しいものを作るのではなく、現在がんばっている人を盛り立てることが大切だと思います。
- ケ 神林の交流に関し各種の団体に参加してもらって協議会をつくり、取りまとめを地域審議会で行うという方向で進めていければと思います。
- コ 神林のいろいろな分野、団体の人が集まる機会はなく、これからは必要なことだと思いますのでとてもいいことだと思います。
- サ 一同に集まることによって、多方面からの意見や要望を聞き、話し合うことで、いい案も出てくるでしょうし、横のつながりもできると思うのでとてもいいことだと思います。
- シ いろいろな方たちに集まってもらって、話してもらうということですが、しっかりとしたテーマとまとめ役の人を決めておかないと、人数が多くなればさまざまな方向の個人の意見の出し合いとなって、座談会で終わってしまうことも考えられると思います。そうなるのは意味がなくなります。
- ス 神林地区にはまちづくり組織、公民館組織や他にもさまざまな組織があり、それぞれに人材育成をうたっています。育成というのは、みんなの声を聴くことではなくて、考えをもってやろうとして、やっている人を支援して伸ばしてやるのが人材育成だと思っています。
- セ コーディネート組織がないからだと思います。そこで育った人が、観光であれ、産業であれ、全ての分野に関わっていくようにすればいいことだと思います。
- ソ 現在すでに地域のために活動をしている組織、団体があるので、その人たちががんばれるように支援していくことの方が、大事なことだと思います。
- タ 現在、集落では自主防災活動、まちづくりなど行政からの仕事が多過ぎます。縦割り行政のために新しい組織が次々と作られていることに原因があるので、結び付ける手立てが必要だと思います。
- チ 神林地区の各種団体、組織の人に集まっていたいで協議をしてもらう方向で進めるようにしたらどうでしょうか。
- ツ お幕場と大池と平林城跡で活動している関係者に、現在の活動内容を確認しておいてほしいと思います。その方たちの活動に支援ができるようになっていければと思います。その後、隣接の人たちとのネットワーク化、つながりができていければと思います。これらの関係から始めて、その後にイベントも必ず必要になってくるので、初めから範囲を広げずに次の段階から入ってもらおうことだと思います。

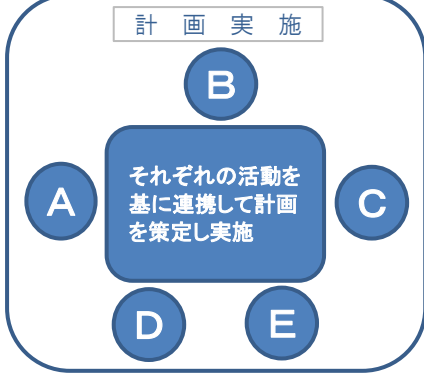
各意見のキーワード

- 結びつき
- 結びつき 特産・場所
- 宣伝発信
- 結びつき
- 魅力
- 結びつき
- 結びつき
- 盛り立て
- 結びつき まとめ役
- 結びつき
- 結びつき
- テーマ まとめ役
- 支援
- まとめ役
- 支援
- 結びつき
- 結びつき
- 結びつき 支援

神林地区 地域活性化推進事業の方針

- 1 地域活性化推進事業を実施するには、(地域審議会)でテーマを決め、そのテーマについての事業を立案する。
- 2 事業実施に際しては、これまで活動してきた団体や関係者から協力を仰ぎ、それぞれの活動の成果が発揮できるように連携して計画実施する。

事業の立案



神林地区地域活性化推進事業の提案

1 地域活性化推進事業テーマ提案

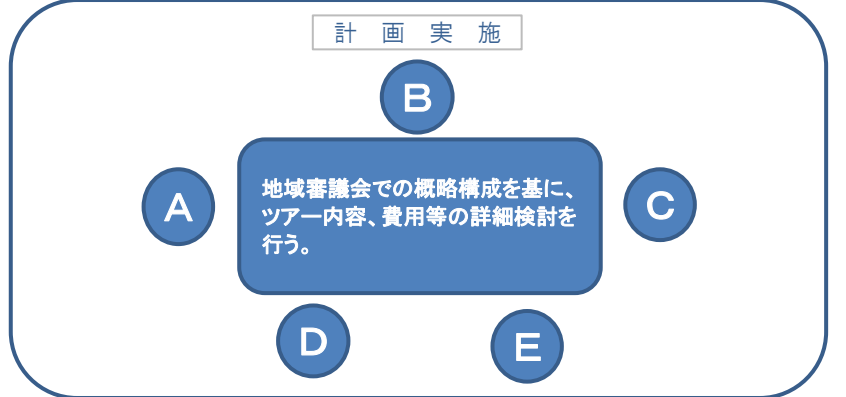
【経過】
これまでの会議の意見で神林を「知らせる、知ってもらう」にはということで、まずマップづくりが提案され、市のホームページの中で文化財や名所だけでなく、歳時記も取入れ紹介していくことになりました。
また、「神林地区を知らせる、知ってもらうためには、まずは地元の現場を見ましよう。」ということで、昨年、地域審議会で主だった地域資源巡りを実施しました。
【事業のテーマ】
これまでの経過から、一番基本になることが「神林を知ってもらう」ということから審議されていますので、テーマを「神林を知らせる、知ってもらう」ということをテーマに据え事業を推進していくことで提案とします。

2 事業立案の方向性

事業の計画立案に際しては、これまでの会議での意見を反映できるように進めていきます。具体的には、
観光、農業、活動している人・団体などの「結びつき」
神林という名前・地域の魅力の「宣伝・発信」
がんばっている団体への活動「支援」
などが意見のキーワードとして捉えられますが、このことが反映できるようにしていくこととします。

これらのことが反映できる推進事業として
「地元を知るバスツアー」(名称未定)

を地域審議会に概略構成(ツアー先、予算等)を行い、実施にあたってはツアーの先の関係者の協力をいただき、具体的な計画を立てることとします。このことにより、結びつきを行い併せてイベント等の盛り上げを行っていきたいということで提案いたします。



予算内で可能な事業

これまでの団体の活動を一時期にまとめたりはできない。

テーマ(中心となる事柄)様々な地域活性化事業がある中で今回やろうとすることに意見を出し合う。

補助しようというものではない、一緒にやって活動の効果が出るようにすること。ではないか。

知ってもらおうということをテーマに置く。

分野ごとにどう宣伝していくか。分野ごとで良いのか。

何を知ってもらおうのか。

頑張ってきたこと。取り組んできた結果を知ってもらおう。

何を地域活性化事業とするかを決め(テーマ)、

このことについて協力を募り神林の中心となるところで、この地域の魅力を知ってもらい、

地域事業を実施するには、(地域審議会で)テーマを決め、そのテーマについての事業を立案する。

事業実施に際しては、これまで活動してきた団体や関係者から協力を仰ぎ、それぞれの活動の成果が発揮できるように連携して計画実施する。

地域事業を実施するには、(地域審議会で)テーマを決め、そのテーマについての事業を立案する。

今まで盛り上げてきている団体、保存会・さくら・活性化協議会・復活プロジェクト・郷育・青少年

何を知らせるか

参加費はもらわないが、行き先での費用を支払ってもらう。例えば昼食代を払ってもらう。神林のお土産を買ってもらう。